'121210 事務局素案

財団法人大阪国際平和センター

ピースおおさか 展示リニューアル構想

～平和学習の場として、さらなる飛躍を！～

はじめに

財団法人大阪国際平和センターは、戦争と平和に関する情報・資料の収集・保存・展示を行うとともに、平和問題に関する調査研究・学習・普及等を図ることによって、戦争の悲惨さを次世代に伝え、平和の尊さを訴え、平和の首都大阪の実現を目指し、世界平和に貢献することを目的に、平成元年7月、大阪府・大阪市の共同出捐により設立された。

そして、これら当財団の目的を実現するための基幹事業として、府市の補助により、大阪国際平和センター（ピースおおさか）を平成3年9月に開館した。以降、ピースおおさかは、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代に伝える平和の情報発信拠点として、また、大阪空襲の死没者を追悼する施設として、府内外において存在価値を発揮するのみならず、府市の平和施策推進の一翼を担ってきた。

1．構想策定の趣旨

ピースおおさかは、本年9月に開館21周年を迎えた。この間、「大阪府民・市民と国内外の人々との間の相互交流を深めることを通じて、大阪が世界の平和と繁栄に積極的に貢献する」とした開館時の設置理念に基づき、展示や企画事業及び研究活動、また、ビデオや展示用パネルの貸出し等を通して戦争の悲惨さと平和の尊さを訴え続け、入館者数は170万人を超えている。

開館以後、東西冷戦構造の崩壊は政治・経済に大きなインパクトを与え、平和を取り巻く世界環境にも変化をもたらし、世界平和の実現に向け具体的道筋が示されることが期待された。しかし、世界のそこここでは依然として紛争が続くなど、平和を脅かす厳しい状況が続いている。

一方、戦後67年が過ぎ、我が国では戦後生まれが総人口の3/4を占めるようになった。戦争の記憶を風化させることなく、次代を担う子どもたちに戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えていくために、ピースおおさかの果たす役割が一層重要になってきていると受け止めている。

このような状況に的確に対応し、世界の平和に引き続き貢献していくのが当財団の使命であり、ピースおおさかを

・大阪空襲を語り継ぎ、犠牲者を追悼する場
・大阪空襲を中心に「戦争の悲惨さ」を知り「平和の尊さ」を考えてもらう、平和学習の拠点

としてより一層充実させるために、抜本的な展示リニューアルが必要、と判断するに至ったものである。

ピースおおさかの機能、役割

○世界平和を目指す大阪のシンボル的施設
府民・市民の、世界の平和を希求する心を表す、シンボル的施設である。
○追悼・祈念の場
大阪空襲の犠牲者を追悼し、平和を祈念する場である。
○国際交流の場
内外のあらゆる世代の人々が世界の平和について語り合い、相互理解を深める国際交流の場である。
○歴史的事象を現代から未来の問題へとつなぐ視点を持つ場
先の大戦に関わる大阪の歴史を学び、未来に向けて平和を求める視点を持つ場である。
○平和に関する生涯学習の場
児童・生徒・学生・社会人・高齢者・家族など、それぞれに対応する平和に関する生涯学習の場である。
○学校での平和教育に協力する施設
学校教育の一環として活用される、平和教育に寄与する施設である。
○関係諸団体の活動を促進する施設
関係諸団体に情報の提供、資料の貸出し等を行う施設である。
○調査・研究機能を持つ施設
展示や資料収集、学習・普及や学習指導などを充実させるとともに、平和の推進に資する調査・研究機能を持つ施設である。
○府民・市民の参加・協力の下に運営する施設
館の事業に府民・市民の参加と協力が得られるようにする。

2．基本的考え方

(1) 展示リニューアルの必要性とその方向性

ピースおおさかは、開館以来、常設展示のリニューアルがなされないまま現在に至っている。そのため、近年における歴史研究の進展に照らして展示内容や解説文に変更が必要なものや、より分かりやすい展示物への変更が望ましいものも生じてきている。

そして、開館当初の予想以上に小中学生の入館者が増え、入館者の6～7割を占めるようになっており、学校活動等を通じた平和学習施設として活用されている。しかし、開館当時の展示や解説、見せ方、展示構成等は、小中学生から見ると難しいものも多く、彼らの目線での見直しが必要になっている。

このように子どもの平和学習施設として定着している一方、とりわけ展示室Bの展示について、「自虐的」「偏向している」「残酷」といった批判が以前よりなされている。また、事実に反し不適切との指摘を受け、展示資料の撤去、差替え、説明文変更等を数度行っている。

展示リニューアルに当たっては、次代を担う子どもたちが、大阪と戦争の関係や身近に起こった空襲の事実を通して、戦争の悲惨さ、戦争の背景を理解するとともに、平和を妨げる様々な要因を克服し、平和な国際社会づくりに向けて取り組む意欲を持つことができる展示、そのために必要な広い視野と公正な視点を育むことができる展示を目指すことを基本とする。

なお、「近現代史の教育のための施設」が検討されていることから、これとの「役割分担・連携」を十分意識しながら、展示リニューアルを進めることとする。

(2) 展示リニューアルに当たっての留意点

○「事実を事実として客観的に展示する」ことを基本に、児童・生徒の平和学習利用に資するよう、教育基本法や学習指導要領の趣旨※を十分踏まえるものとする。

○展示資料については十分な出典調査を行い、より適切な展示に努めるものとする。

○「戦争の悲惨さを的確に伝える展示」を念頭に置きながら、感受性豊かな子どもに過大な負担をかける展示ではないか、展示構成に不可欠なものか、専門家の意見も聴きながら検討するものとする。

(3) 展示リニューアルの目標

展示リニューアルに当たっては、

・国際的視野に立ちつつ、大阪という地域性を重視した展示
・戦争の悲惨さに対する理解を深める展示
・平和を自分自身のこれからの課題として考えることができる展示
・展示を通じての平和学習・認識がさらに深まるようフォローできる、国際的な平和情報センターとしての機能の充実

を目指すものとする。

※教育基本法

（教育の目標）

第２条　教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

(4)　生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。

(5)　伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

小学校学習指導要領　社会

第６学年の目標

(1)　国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。

(2)　日常生活における政治の働きと我が国の政治の考え方及び我が国と関係の深い国の生活や国際社会における我が国の役割を理解できるようにし、平和を願う日本人として世界の国の人々と共に生きていくことが大切であることを自覚できるようにする。

(3)　社会事象を具体的に調査するとともに、地図や地球儀、年表などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味をより広い視野から考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにする。

中学校学習指導要領　社会

歴史的分野の目標

(1)　歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えされるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる。

(2)　国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。

(3)　歴史に見られる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う。

(4)　身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して歴史に対する興味・関心を高め、様々な資料を活用して歴史的事象を多面的・多角的に考察し公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

公民的分野の目標

(1)　個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う。

(2)　民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動とのかかわり及び現在の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる。

(3) 国際的な相互依存関係の深まりの中で、世界平和の実現と人類の福祉の増大のために、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことが重要であることを認識させるとともに、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることが大切であることを自覚させる。

(4) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。

展示方針及び基準

(財)大阪国際平和センターは、戦争の悲惨さを伝え、平和の尊さを訴えることにより、大阪府民・大阪市民と国内外の人々との相互交流を図り、大阪が世界の平和と繁栄に積極的に貢献するため設置されています。

当館の展示については、設置理念に基づき、事実を事実として客観的に展示することを基本として、次の基準により実施します。

1. 展示については、設置理念に基づき、事実を事実として客観的に展示することを基本とする。
2. 展示資料については、広く社会に公表されている資料等を使用する。
3. 展示資料の説明文は、出典に基づき、簡潔にして分かりやすい表現とする。
4. 展示資料については、日常的に収集、調査・研究を行い、より適切で効果的な展示に努める。
5. 展示資料の更新については、事務局及び企画運営委員会（展示専門部会）で検討し、理事会で決定する。

3．展示リニューアル構想

(1) 展示構成

展示リニューアルに当たっては、現在の常設展示室の位置付け（A：大阪空襲と人々の生活、B：15年戦争、C：平和の希求）にこだわらず、「大阪（空襲）中心」を基本とする。大きな流れとしては、

○まず、多くの入館者にとって身近な「大阪空襲」「戦時下の大阪のまち、人々の暮らし」を中心に取り扱い、戦争の悲惨さを実感するとともに、その実相と空襲の背景を学ぶ。

○次に、これら戦争の悲惨さを踏まえて、平和の尊さの意義、平和を希求する大阪や日本・世界の姿勢を示し、未来に向けた展望を持てるように整備していく。

このように、戦争を暗く悲惨な過去の事実と受け止め、その裏返しとして平和を捉えるのではなく、それを教訓に、視野を世界に拡げ、平和の大切さとそのために何ができるか、将来どう生きていくかを入館者各人が考え持ち帰ることのできる場とする。

なお、躯体の変更は行わず、各室そのものの配置は動かさない。ただし、入館者の動線や各室内のレイアウト等は「白紙」から検討するものとする。

(2) 展示室ごとの基本コンセプトと展示内容

①1階展示室(198㎡) &2階展示室(327㎡)

【基本コンセプト】

○非戦闘員を多数含む市民の命・暮らし・財産を奪う空襲の激烈さと悲惨さを知ること、及び空襲が昭和初期から太平洋戦争までの日本の戦争の遂行と深く結び付いていることを知る。

○軍都大阪の役割と戦時下の大阪の人々の生活を知る。

【展示内容】

テーマ	項　目	展示例
大阪空襲	空襲の実相	＊本土空襲に至る経緯……避けられなかったのか ・米軍の意図、戦略 ・爆撃機、１トン爆弾、機雷、焼夷弾のメカニズム、威力（実物大模型） ・実物大防空壕（体感機能を付加）
	各地の空襲、傷あと	・大型戦災地図、京橋駅空襲や東住吉に投下された模擬原爆 ・戦災遺物（折れ曲がった鉄骨、弾痕など） ・ジオラマ『戎橋筋界隈の焼け跡』
	市民が見た空襲	体験談、体験画
戦時下の暮らし	大阪の軍事施設 大阪の産業	（大阪砲兵工廠など大阪城周辺は別建てで詳しく）
	地域	・警防団、隣組、防空訓練、灯火管制、家屋（建物）

		疎開、婦人会、統制・配給 ・当時の民家を再現（上がって触れる） ・戦地との往復書簡
	学校	・国民学校、軍事教練、勤労奉仕・動員、学童疎開、学徒動員 ・教科書、服装、遊び、お菓子など
	応召・出征、戦地の日々	・徴兵検査、召集令状、千人針 ・大阪出身者が多い部隊の活動 ・シベリア抑留
	外地の大阪人	満蒙開拓団、青少年義勇軍

※現代の姿と対比させて興味を惹く

②3階展示室(194㎡)

【基本コンセプト】

○大戦後も世界各地で紛争や内乱が起こっていること、戦争がない状態が平和ではなく、飢餓や貧困、環境破壊等、生命を脅かす事象も平和の対極にあるものであることを知る。

○平和で民主的な国際社会の実現に努めることの重要性、そのためには相互理解・国際協調が不可欠であることを知る。

○1、2階展示室の見学を踏まえ、子どもの学習成果の定着や伸展を図る等、将来につなげる視点を提供する。

【展示内容】

テーマ	項　目	展示例
平和の希求	焦土からの復興	「大大阪」、終戦直後（焼け跡、進駐軍）、復興（大阪万博まで）、現代の街並み
	世界各地の平和の危機	地域紛争、飢餓や貧困、地球環境問題とこれに対する取組み
	平和の創造	・平和の概念（積極的平和） ・国、地方自治体、NGOなど様々な主体の平和への取組み
	未来を見つめて	・地球や人類の未来に対するメッセージ →ノーベル平和賞受賞者等のオピニオンリーダー、入館者 ・生命の大切さ

③共通

【ハード面】

・メモ台やワークスペース（校外学習での利用の便を図る）
・小学校高学年～中学生が利用しやすいレイアウト（目線の高さ、展示ケースの奥行きなど）
・ナビゲーター役のキャラクターを制作、利用
・見るだけでなく、触れる展示
・展示内容に応じて、映像・音声や光を利用した立体的な表現

・頻繁な情報更新、多様な展示更新を可能にする、フレキシブルな展示システム
・スロープや階段の壁面、吹き抜けの活用（展示内容の詳細に合わせ必要性を検討）

【ソフト面】

・小学校高学年や外国人が理解しやすい、具体的で簡潔で分かりやすい表現
・文字の多用は避け、詳細解説は別途パンフレット等で
・多言語音声ガイドシステム

など

4．ハード面の整備

開館以来21年が経過し、時間的経過とともに劣化が進み、漏水や冷暖房、映像機器等の故障が起こっており、公的な有料展示施設として不可欠な機能維持の観点から、ここ数年、継続的に設備類の更新を行っている。

将来にわたって大阪空襲死没者の追悼施設、また、府民・市民の平和学習の場、平和情報の発信の拠点施設として良好な状態で運営していくためには、部分的修理に止まらず、大規模改修が不可避である。そのため、展示リニューアルを契機に、ハード面についても全般的な調査を行った上、必要な改修計画を策定し、その計画に沿って改修を進めていく必要がある。

館の概要

○構造　鉄骨鉄筋3階建

○敷地面積　2,513㎡

○延べ床面積　3,483㎡

展示室A	327㎡	2階	常設展示室　719㎡
展示室B	198㎡	1階	
展示室C	194㎡	3階	
特別展示室	167㎡	1階	
収蔵室	64㎡	1階	
映像コーナー	161㎡	3階	
図書室　開架	65㎡	3階	
閉架	57㎡	3階	
収蔵庫	151㎡	1階	
講　堂(ホール)	300㎡	1階	250～300人
会議室(Ⅰ,Ⅱ)	67㎡	3階	30人程度（分割可）
(Ⅲ)	40㎡	3階	10人程度
事務室	72㎡	2階	
役員室	39㎡	2階	

1階	880㎡	1,902㎡
2階	438㎡	
3階	584㎡	

機械室	325㎡	1,581㎡
エントランス	253㎡	
スロープ	269㎡	
階段・倉庫等	734㎡	